

# らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ

常木らくだ

5月になりました - 2015.05.01 Fri

---

こんにちは、らくだです。

今日から5月になりましたが、暑い毎日が続いております。

もうすでに初夏のような空気ですが、自分はどちらかと言えば寒さが苦手なので、気温が高くなるのは嬉しいことです。

さてさて。

まずは月始め恒例の、パブー版の紹介から。

性懲りもなく活動が続けた結果、とうとう40冊目となりました！

ブログのデータを流しただけの代物ですが、いつもファボ&リツイートをくださる方、どうもありがとうございます。

【らくだ図書館（40）】

<http://p.booklog.jp/book/97722>

どの号もPDFで保存できるので、行楽のお供にいかがでしょうか？

そうそう！

PDFといえば、数日前に注釈の保存ができないと書きましたが、できました！

理由は至って単純で、数日前に「Adobe Reader DC」にアップデートしたのが原因で、普通の「Adobe Reader」に戻したら何の問題もなく保存できたという……（汗）

ですがここに書いたおかげで親切な方に教えていただいたので、できなかった記事でも、ブログに書いてみるものだなあと思ったりしました（完全に他力本願）

というわけで。

5月らしからぬ暑さですが、太陽を味方につけて（?）、今月も頑張ろうと思います。

こんにちは、らくだです。

最近いきなり暑くなってきましたが、洗濯物がよく乾くのは嬉しいです。

さてさて。

タイトルにある通り、えんため大賞【ゲーム実況部門】の、結果が発表されました。

小説投稿とは関係ありませんが、えんため大賞に関連するニュースということで、リンクを貼っておきます。

【発表ページ】

<http://www.enterbrain.co.jp/entertainment/awards/17live.html>

126 作品から 5 作品が受賞という結果です。

発表ページの雰囲気を見ても、新設の賞でありながら、かなり盛況だった印象です。

ボーカロイド部門の時も思ったのですが、こういうアプローチもいいですね。

自分で楽曲を作成したり、ゲームをプレイして実況したり、こういう発信もアリだなあと。

小説部門とは明らかに応募者層が違いますが、だからこそ「えんため大賞」という同じ看板の中にジャンルの違う部門があると、見聞を広げるキッカケになると思います。

逆に他ジャンルで活動されている方々にとっては、「小説を書いて投稿する」という行動に興味を持ってもらうキッカケになるかもしれませんし、こういう横の広がりはどんどん増えて欲しいです。

ちなみに新設された部門については、新しい募集要項がまだ出ていませんが、できればこれからも続いて欲しいな……と。

レーベル再編の話などもありますが、今後の新人賞がどうなっていくのか、動向を見守りたいと思います。

こんばんは、らくだです。

フォロワーさんの眩きで知ったのですが、面白そうな賞がありますので、こっそりリンクを貼っておきます。

【角川文庫キャラクター小説大賞】

<http://www.kadokawa.co.jp/contest/character-novels/>

<募集内容>

魅力的なキャラクターが活躍するエンタテインメント小説。

同一の世界観と主人公による短編、2話以上(2話以上からなる連作短編)。

規定枚数内であれば、各短編の枚数・話数は自由。

<規定枚数> 原稿用紙 180枚~400枚

<締切り> 2015年5月7日(木)

<発表> 2015年8月予定

どうでしょう？

面白そうだと思いますか？

短編連作を認めている賞はあっても、わざわざ「同一の世界観と主人公による短編連作」と限定して募集する賞は、今までありそうでなかったですし。

なので是非挑戦したいのですが、残念ながら、すでに締切間近なんですよね。

というわけで、自分は惹かれつつ不参加ですが、募集要項に沿う作品をお書きの方は、挑戦されてみてはいかがでしょう。

それにしても、こんな面白そうな賞を事前に紹介できなかったなんて、投稿ブログを書く人間として悔やまれますが、今はひとまず第2回の募集を期待して待とうと思います。



## コスモタワー展望台 - 2015.05.04 Mon

---

ゴールデンウィーク後半は、近場の遊び場ということで、大阪南港へ行ってきました。

まずはコチラ。

コスモタワーの展望台へのぼったので、その様子を写真とともに紹介します。



悪名高き(?) WTC、現コスモタワーは、ビルの高さ256m。

1位・あべのハルカス、2位・横浜ランドマークタワーに続く、日本3位の高層ビルです。

府民の皆様にはお馴染みの事実ですが、今は大阪府へ管理が移転され、咲州庁舎として利用されています。



庁舎の移転問題はさておき、府が管理している為か、入場料が安いのは嬉しいところ。

さほど遠くないハルカスが、大人1,500円なのに対し、こちらは510円ですからね。

話題性などを抜きにして、純粋に景色が見たい場合は、ここの方がオススメかも。



展望台はシンプルでスタイリッシュなイメージです。

ガラスに傾斜がついているので、下を見おろすと、眺望が目の前に広がってくる感じ。見える景色もさることながら、展望台のつくり自体も、観察すると面白いですね。



こちらは南側の様子。

ちなみに真下を見おろすと、ハイアットホテルの屋上の、BBQガーデンが見えました。ここでお昼を食べるのが、南港へやって来た目的ですが、その記事はまた次回に。



一方、北東の方向を望遠で撮ると、U S Jの中を覗き見できました。

下の写真はエルモやスヌーピーのエリア、ユニバーサル・ワンダーランドの壁ですね。  
U S Jは長らくご無沙汰しているので、近いうちに行ってみたいと思います。



ちょっと白く霞んでますが、 hogwarts城も見えました。  
ハリポタのアトラクションは、酔うと評判(?)ですが、一度は乗ってみたいところです。

しかしこうして見ると本当に、U S Jって、工業地帯にあるんですねえ。



さて、展望台を出た後は、近くのA T Cを散歩しました。

青い空に背の高いヤシの木、それに潮風という、気持ちのいい空間です。  
イベントでもなければ来ませんが、こうして歩くと、南港っていい場所だと思います。



心と顔を上げると、先程の展望台が↓↓↓

さっきまでいた展望台は、てっぺんにある、ダイヤ部分なんですね。  
なるほど、確かに下から確認しても、ガラスが斜めになっています。



反対側をパッと見ると、大分行きフェリーも。

行き先は別府だそうです。こうして船が停泊しているのを見ると、海のロマンが感じられます。





というわけで、コスモタワー展望台と、ATCの様子でした。  
ちょっと歩き疲れましたが、気分的には、とてもリフレッシュできました。

次回はハイアットリージェンシーホテルの、BBQガーデンの様子をご紹介します！

バーベキューガーデン - 2015.05.05 Tue

---

ハイアットリージェンシーホテルの、バーベキューガーデンに行きました！

まずはコチラ、入口の様子。

南港の真ん中にある落ち着いた高級ホテルです。



さっそく屋上へあがってみると、いかにも「バーベキューガーデン」という、ワイワイした雰囲気です。

本来は激混みで予約推奨みたいですが、早く行ったおかげか、予約なしで入れたのはラッキーでした。



さてさて。

肝心のバーベキューですが、当然ながら、自分自身では焼きません。

プロのコックさんが目の前で焼いてくれて、それをバイキング形式で食べられるという、ゴールデンウィーク限定の素敵なイベントです。



手前のツボは全部ソース。  
ソースだけで10種類もある贅沢ぶりです。

さっそく食べようと思いきや、肉へ辿り着くには長蛇の列が。



野菜やデザートエリアは空いていましたが、やはりバーベキューガーデンへ来たからには、まず最初にお肉を食べたいところです。

我慢して辿り着いたら、サイコロステーキが、目の前でジュウジュウ！



豪快ですね（笑）

もちろんホテルだけあって、お肉以外の料理も充実です。  
氷の上の冷菜というのは、見た目も涼しげで、気持ちがいいですね。



そして何とも嬉しいことに、この会場は、アルコール飲料も飲み放題。

ビールやワインはもちろんながら、ウォッカやジンやラムを手酌で（！）注ぎ放題という、それは素晴らしいイベントでした。



いざ、かんぱーい！



しかし、焼きそばを取り過ぎたのは失敗でした……。

せっかくバーベキューが食べ放題なのに、焼きそばで満腹になっちゃ勿体ない……。



ワインもこの通り、しっかり冷えた物を、自由に飲めます。

料理自体もさることながら、会場の雰囲気も素敵でした。

こういうことができるから、自分はやっぱり、冬よりも夏の方が好きです。



お肉とお酒がメインですが、さり気なく、デザートも絶品揃いでした。

ふと顔を上げれば、コスモタワーが。

カメラのレンズの加減(?)で、ピサの斜塔のようですが、とにかく開放的な空気感です。



というわけで、気分爽快&お腹も満足の、とても充実した2時間でした。

次回は帰りに立ち寄った北港の様子をご紹介します！

南港からの帰りに、天保山へ寄りました。

天保山というのは、日本一低い山として正式に登録されている、観光名所(?)です。

それではさっそく、行ってみましょう。



場所は地下鉄中央線、大阪港駅から徒歩です。

海遊館とは逆方向へ歩いて行くと約5分で到着します。

公園に入ってみると、大阪市章にもなっている、みおつくしの絵がありました。



後ろに見えている白い橋は、阪神高速の湾岸線です。

USJ (パーク内) から見える橋として、ユニバファンにはお馴染みだと思います。

それでは、登頂開始!



手前の広場が登山口で、階段の上が山頂です。  
標高は4.53mで、踏破時間ほぼ2秒。

噂通り低すぎる！！



低さで話題になりがちな天保山ですが、実際は普通に居心地のいい公園です。

何より白い橋が絵になりますし、北港に停泊する船も見えますし、近隣住民の憩いの場になっていました。





登頂記念碑（？）もあります。

一方、木立の向こうには、渡し船の乗場がありました。  
大阪市が運営しており、なんと無料で、対岸へ行けるそうです。



北港のオシャレなイメージと、昭和臭ただよう船のギャップ！

ちなみに対岸は桜島なので、つまり、USJへ行けるわけです。  
今回は乗りませんでした。いかにも味のある船ですし、いつかは挑戦したいです。



右はUSJのオフィシャルホテルで、左の黒いハリボテっぽいのは、ニューヨークエリアの裏側ですね。

ひょっとすると天保山公園って、カウントダウン花火の穴場？  
さすがにちょっと遠いでしょうか？



反対へ目を向ければ、この通り観覧車も。

天保山マーケットプレースの入口には、レゴランド大阪がオープンした為か、レゴのキリンがドローンと置かれていました。



さらに先へ行けば、お馴染みの海遊館。

USJもさることながら、最後に海遊館へ行ったのもたぶん10年くらい前なので、また入ってみたい気がします。



というわけで、南港（ちょっと北港も）の様子でした。

ゴールデンウィークは残念ながら今日で終わりですが、今は気候もいいことですし、梅雨に入るまで引き続き積極的に活動したいです。

もうじき5月10日だ！

こりゃ電撃の総数発表も近いな！

と思ってソワソワしていたところ、総数発表は6月10日だというご指摘をいただいて、我に返った常木ら  
ください。

確かにそうだ……。

どうして自分は1か月も勘違いを……。

と落ち込んだ矢先、公式ホームページを見に行ったら、更新がありました。

【公式サイト】

<http://asciimw.jp/award/taisyo/index.html>

なんと次回の募集から、ウェブ応募が可能に！

5月11日から受付開始ということで、まだ実際の投稿画面はオープンしていませんが、この情報は非常に  
気になりますね。

データはテキスト形式？

書式や規定枚数に変更はある？

従来通りの郵送投稿も受け付けるの？

等々、気になる部分が非常にたくさんありますので、週明けの更新を漏らさずチェックしたいと思います。

一般的にはウェブ募集が始まると応募数が増えるので、これをキッカケに更に賞が盛り上がったら嬉しい  
ですが、これ以上増えて激戦になるのも怖い気がしますよね（汗）

とにかくいずれにせよ、より詳しい募集要項を、早く知りたいところです。



本屋マニアたる者、新規オープンの書店をチェックするのは、もはや使命です。

というわけで。

本日オープンした梅田の蔦屋書店へ行ってきました。

場所は大阪駅直結、ルクアイーレ9階。

蔦屋書店といえば代官山が有名ですが、関西には初出店なので期待が高まります。

【公式サイト】

<http://real.tsite.jp/umeda/>

店内の雰囲気は公式サイトのとおりですが、簡単に言うと非常にオシャレな造りです。

ハイソなOLさんが、洋雑誌を片手にコーヒーを飲む、そんなイメージ。

あまりにもオシャレすぎて、キラキラしたワナビには、逆に敷居の高い雰囲気でした。

そして雰囲気もさることながら、何より特徴的なのは棚割りです。

たとえば旅行エリアを例にとると、旅行ガイドブックは当然のこと、その地を舞台にした小説、歴史本、写真集……等々、関連本がすべて置かれているといった具合。

さすがにヴィレッジヴァンガードほど極端ではありませんが、こういうテーマ別の棚割りは、「特定の分野について深く知りたい」という時に便利かも？

そんなこんなで、ルクアにはすでに三省堂書店がありますが、うまく住み分けができそうな印象でした。

本の内容はどこで買っても同じですが、だからこそ店の雰囲気は重要ですね。

今後も積極的に自分の足で本屋を巡り、お気に入りの店を増やしたいと思います。

こんばんは、らくだです。

先月募集した感想企画ですが、結果的に、10本の作品を拝読しました。

ど、どうしよう……？

想像以上に集まっちゃったけど、期限までに全部読めるかな……？

と最初こそ不安を感じたものの、いざ読み始めたらどの作品も面白く、非常にいい刺激を受けました。

というわけで、本日までにすべての返信が完了しましたが、もし未着の方がいらっしゃればお手数ですがご連絡くださいませ。

それにしても、他の投稿者さんが書かれた作品に触れるのは、ものすごく強力なモチベーションになりますね。

やっぱり人によって個性がまったく違うので、自分では思いもつかないような作品ばかりで、楽しい上に刺激的でしかも勉強にもなるという、まさしくいいこと尽くめみたいな状況でした。

まあ途中、「こんな作品がライバルだったら、自分の原稿はそりゃ落ちるわ」と、スーパー自虐モードにも入りましたが……（汗）

でも終わってみれば、本当に収穫だらけなので、企画してよかったです。

参加してくださった皆様、ありがとうございました。

個別に返信はしておりますが、改めてお礼を申し上げます。

こういう企画を実行したのが初めてなので、もしかすると失礼な部分などあったかもしれませんが、またの機会がありましたら是非よろしく願います！

ついにと言うか、今さらと言うか、以前から話題になっている擬人化オンラインゲームをプレイしてみました。

正直これまでは、

- ・システムが面倒くさそう
- ・兵器を擬人化する意味がわからない
- ・キャラによって絵師さんが違うから統一感がない
- ・そもそもオンラインゲームって課金しなきゃ強くなれないし

という非常にマイナスの偏見を持っていたのですが、いざプレイしてみたら、予想を大幅に裏切って面白かったです。

システムに慣れるまで大変ってのは、まあどのゲームでもそうですしね。

それに、絵師さんが大勢だからこそ、好みのキャラクターが見つかるわけです。

課金プレイヤーが有利なのはまあ実際そうですが、無双しようと思わなければ無課金でも十分に楽しめるし、これだけ人気な理由も「なるほど」って感じです。

でも、アレですね。

このゲームだけに限ったことじゃなく、内容を聞いただけで敬遠している作品は、正直他にもたくさんあります。

それって実は、自分自身にとって、すごく損なことじゃないかなと。

その作品が好きか嫌いかの判断は、自分で実際に体験してみて、それから決めればいいわけで。

そんなことを考えたので、内容を聞いただけで敬遠している小説も、この機会に読んでみようかなあ……なんて思いました。

こんばんは、らくだです。

ウェブ投稿の詳細を含む電撃の応募要項が、公式ホームページにアップされました。

【公式サイト】

[http://dengekitaisho.jp/novel\\_apply.html](http://dengekitaisho.jp/novel_apply.html)

一通り確認しましたが、書式や規定枚数などに、変更はないようです。  
従来通り 42 字× 34 行で、短編は 15～30 枚、長編は 80～130 枚です。

変わった部分といえば、

- ・ウェブ投稿の受付ページオープン
- ・ワンポイントアドバイスの内容がさらに充実
- ・各ファイル（Word、OpenOffice、一太郎）のフォーマット配布

などですが、やはり目を見張るのは、受付可能なデータ形式の多彩さ！

なにしろ『テキスト（txt）、MS Word（doc、docx）、OpenOffice（odt）、一太郎（jtd）、PDF（pdf）』ですからね。

テキストや Word は他の賞でも見かけますが、一太郎や PDF までオーケーなんて、正直なところ予想外なので驚いています。

ちなみにウェブ投稿で通過した場合、評価シートはマイページからの確認になり、その場合郵送はされないようです。

ま、これだけ色々言っても、自分は次回も郵送しますけどね！

印刷して郵便局へ駆け込む感慨は、ウェブ投稿じゃ味わえませんから！

とりあえず以上ですが、補足情報などがアップされないか、この先もチェックを続けたいと思います。

ウェブ投稿の記事が先行しましたが、おととい5月10日にインテックスで開催された、コミックシティ大阪へ行ってきました。

自分は二次オタですが、同人誌の即売会へ行くのは、人生初の出来事です。  
特に目当てもないのですが、入場無料と聞いたので、散歩気分で行ってみました。

会場の雰囲気は、コミケのニュースなどから想像できたのですが、まさにその通り。  
広い会場に机が並べられていて、それぞれのブースで、売り子さんが本を売るという。

しかし当然と言ったらまったく当然なんですけど、事前情報がないと、どのブースへ行ってもいいかわからないですね。

これが本屋なら気になった本を吟味するんですが、目の前に売り子さんが座っている状態では、見るだけ見て買わないのは心苦しいですし、気の利いた会話を交わす社交性もないですし（汗）

そういうわけで、会場を一周して、早々に退散しました。  
ただ会場が恐ろしく広いので、一周するにも時間がかかり、空気は充分に楽しめました。

それにやっぱり、こういう場で創作への熱意に触れると、刺激になります。

あまりの人の多さに圧倒されましたけど、「サブカル好きな人がこれだけいるんだ！」というのを、視覚的に実感できたのも貴重な体験でした。

とにかくそんなわけで、次にこういうイベントへ行く機会があれば、ちゃんと下調べをしてから参加したいと思います。

あとは個人的な願望を言うと、自分もいつかはデビューして本を出して、同人誌を書いてもらえるくらいの人気作家になりたいです。



こんばんは、らくだです。

自分はその日何をしたか創作手帳に書き込んでいるのですが、ふと数えてみたら、この1か月に下読みさせていただいた作品が15件ありました。

例の電撃感想企画や、個別にご依頼いただいた件等を、合わせての数字です。

本職の下読みさんはこの比じゃないと思いますが、2日に1本の計算となると、一般人としては多い方じゃないかと思います。

下読みを積極的に行った理由として、以前挙げた「刺激になる」はもちろんなんですが、それをキッカケに周囲と繋がりが持てるのもいいですね。

自分は投稿者なので、基本的には、デビューが目標です。  
常に上を目指しているし、上へ進んで行くために、日々活動しています。

ただちょっと横を見回してみれば、そこには自分と同じように「上を目指す」、投稿者さんがいるわけです。

そういう横方向の繋がりがあって、大事だと思うんですね。

それぞれの進む方向は縦ですが、互いに背中を押し合って力強く進めたら、それはすごく素敵じゃないかと。

だから自分は、他の投稿者さんは敵じゃなくて、あくまで仲間で味方だと思っています。  
まあ、そんな甘っちょろい考えだから、こういう結果なのかもしれませんが……（汗）

というわけなので、また何かしら企画をやりたいな、と思っています。  
具体的に何になるかわかりませんが、その際には、また是非よろしくお願いします。

こんにちは、らくだです。

今回の記事はオススメ作品の紹介です。

以前から相互リンクを貼らせていただいている、須藤裕美様の小説が、この度マイナビ BOOKS 様より刊行されました！

まずはコチラをご紹介。

華やかな表紙イラストが魅力的な、女性向けの和風ファンタジーです。

『武神少女伝 身代わり皇女は武術の達人!?』（1）



→ [Amazon \[Kindle\] 購入ページ](#)

→ [楽天 \[Kobo\] 購入ページ](#)

「武術の達人である活発な少女・市花は、すたれてしまった道場を再興しようと、人知れずコツコツ努力を続けている。そんなある日、皇女の影武者として宮中へ上がるよう、時の大臣から直々に依頼を受けるが……？」

個人的な感想としましては、どんな困難な状況でも前向きな主人公、市花がとても魅力的です！

表紙の鮮やかな十二単が、目を惹きつけますよね。

もちろんイラストだけでなく、彼女の魅力は、文章からも伝わってきます。

今回は1巻なので序章的な内容ですが、この後どうなっていくのか、次巻以降を楽しみに待ちたいところ  
です。

媒体は電子書籍で、99 円というお手頃な価格ですので、是非とも皆様チェックしてみてください！

こんにちは、らくだです！

前の記事で紹介した件ですが、たくさんのリツイート、ありがとうございました。  
著者様のブログにもありますが、お陰様で好調で、私も非常に嬉しく思っています。

え？

宣伝じゃなくって、お前自身の作品は？

そ、それはですねえ……（目そらし）

だってほら？

新人賞でデビューできる確率って1%程度なのよ？

なんて言って弁解したいところですが、自分が交流している創作者さん達は、次々とその1%に入ってますからね。

だから確率は言いわけで、通る人は通るんだな一と。

逆の表現をすると、通らない人は通らない、とも言えますが。

そんな「通らない人」筆頭の自分ですが、先にデビューされた皆様が本当に親切で、いつも非常に助けられています。

だって普通に考えたら、作家と投稿者って、壁あるじゃないですか？

自分自身がデビューしたら、投稿者とは関係切ろうとか、思いそうじゃないですか？

なのに当然のように交流を続け、しかも背中を押して応援までしてくれるって、どんだけ親切なのよっていう。

そんな状況がありますので、自分もいつか絶対に本を出し、恩に報いたい気持ちです。

何かイベントでもあったのかと思うくらい、アクセスカウンターが異様に回ってるんですが、心当たりがないので普通に進めます。

今回の話題は火鍋です！

最近ご無沙汰だったので、たぶん数か月振りです！

しかも今回は店ではなく、自宅で挑戦してみました。

小肥羊がネット通販を始めたので、スープと一緒に、専用鍋を買ってしまったのです。

【小肥羊ネットストア】

<http://direct.hinabe.net/>

そんなわけで、さっそく調理。

カセットコンロが家がないので、ガスコンロで煮ながら、そのまま食べることにしました。

移動の手間がないし、テーブルも汚れないし、まさしく一石二鳥！



結論から先に言うと、おいしかったです。

そこまで期待はしてなかったんですが、お店で出てくるのとほぼ同じ味でした。

ただ、薬味はスープに付いてますが、あくまで最低限の付属品って感じなので、ネギやニンニクやしょうがは自分で用意必須です。

あと、唐辛子もあるといいですね。

自分で結構足しましたが、それでも小辛程度だったので、スープの辛さは控えめです。

今回はネット通販のスープを使いましたが、香港からの輸入版（写真の背景に写ってるヤツ）も入手したので、次は同じ材料で食べ比べをしてみたいです。



こんにちは、らくだです。

なろうコンの受賞作品が発表されました。

火鍋に夢中で生放送は見逃してしまったのですが、以下のサイトで結果を確認できますので、いつも通りひっそりリンクを貼っておきます。

【公式サイト】

<http://www.wtrpg9.com/novel/>

応募総数 6284 作品

受賞作 21 作品

受賞率 約 0.3 %

受賞率だけに注目すればアンダー 1 %ですが、21 作品が書籍化決定というのは、大盤振る舞いと呼んでいい気がします。

そして、そして。

上の結果発表のページから、編集さんが書かれた、各作品の講評が見られます。

文章量は 1 作品につき 5 行程度で、ちょうど評価シートに載るようなコメントが、誰でも確認できるわけです。

作品自体を読破するのは時間がかかりますが、講評だけならすぐに読めるし、もしかしたら役に立つ情報が得られるかも？

あとそれから、お祝いのメッセージを、受賞者さんに送れるんですよね。

講評掲載は他賞でも聞きますが、コメントできるのは、ここが初じゃないかと思います。

というわけで、未チェックの皆様は、確認されてみてはいかがでしょうか？

今朝は自分の作品がノベライズされて大喜びする夢を見たんですが、自分の作品はそもそも最初から小説であって、ノベライズって何だよ意味わかんねーと思ったところで目が覚めました。

アニメ化とかなら良かったのに……。  
どうして夢にまでオチがついてるんだろう……。

さてさて。  
その前置きとは関係ありませんが、今回はなろうコンペの紹介です。

以前開催されたアイリス恋愛ファンタジー大賞ですが、第2回が正式に決定したようで、一迅社のホームページに詳しい要項が掲載されました。

【応募要項】

[http://www.ichijinsha.co.jp/special/iris/renaif\\_award/](http://www.ichijinsha.co.jp/special/iris/renaif_award/)

要項の中で、自分をもっとも注目したのは、この部分。

↓↓↓

『アイリス恋愛F大賞の「F」は全角英数大文字でご入力ください。』

サラッと書いてあるけど、これ、一番重要じゃないですか？  
全角・半角が違っていると、検索から漏れますもんね（汗）

それはさておき、締切りは9月です。  
参加方法はなろうに作品をアップし、キーワード登録することで完了です。

締切り欄を詳しく見ると、早くも第3回の開催が決定しているようなので、女性向け作品を書かれる方はチェックしてみてもいいかもしれません。

こんにちは、らくだです。

なろうコンの個別講評を読む中で、「新人賞へ投稿する作品」と「ネット小説のコンペ」で明らかに違ちなぁーと思った部分があるので、今回はそれに関するひとりごとを。

まず大前提となる話ですが、投稿の場合は、完結させなきゃいけません。

途中で終わっている作品はマイナス評価を受けますし、未回収の伏線が目立つ形で残っているのも、基本的にはあまり好ましくないと言われています。

それに対して、ネット小説は未完でもいいので、無理にまとめる必要はありません。  
というかそもそも、ランキングで上位を占めている作品の大半は、連載中の小説です。

そういう前提があるせいか、なろうコンの講評を読んでいると、「続きが楽しみ」「今後の展開に期待」というコメントが目立つ気が。

今回の受賞作品は21作ありますが、綺麗に完結している点を評価されているのは1作だけで、それ以外のほとんどは続きに期待系のコメントに見えました。

公募とネット小説のコンペ、どっちがより優れている、という話じゃないですよ。  
ただその両者を比較すると、求められている物が、根本的に違うんだなぁーと。

その辺の違いをわかっていないと、よかれと思ってやった演出が裏目に出かねないので、それぞれの特性はよく理解しておくべきだと思いました。

逆の見方をすると、両方で活動している創作者さんは、スゴイと思います。  
公募もなろうのコンペも、同じ筆名で参加している方って、チラホラいますもんね。

とりあえず今は公募勢の自分ですが、将来的には、ネットでも活動したいと思います。

こんにちは、らくだです。

先日紹介した『武神少女伝』ですが、著者である須藤博美様のブログに、ラフ画が掲載されているようです。本文の試し読みも追加されていますので、よろしければ是非ご覧くださいませ。

コチラです↓↓↓

<http://writersudohiromi.blog.fc2.com/>

こうしてイラストが出来上がる過程を見ると、絵を描かれる方って、改めてスゴいなぁーと尊敬しちゃいます。

ちなみに皆様は、「絵に魂が宿る瞬間」って、作画過程のどの段階だと思いますか？

自分はずっと「色を塗った瞬間？」と思っていたのですが、自分で絵を描くようになってからは、「ハイライトを入れた瞬間だな」と思っています。

たとえば黒髪を表現するにしても、黒一色のベタ塗りではダメです。

白のハイライトを追加してツヤを表現したり、影の部分はより濃くしたり、光を表現することで立体感が生まれるわけです。

ということを知ってからは、絵を描くのがいかに大変かわかったので、イラストレーターさんを一層尊敬するようになりました。

ちょっと強引ですが、これってたぶん、文章にも言えますよね。

ただ書くだけの文章じゃなく、仮にもプロを目指しているからには、商品として勝負できるような文章を日頃から書きたいと思います。

突然ですが、皆様は「投稿をやめよう」と考えたことは、ありますか？

自分はあります。

というか落選するたびに思っています。

まあ落ちた後ヤケ酒して酔っ払って、「もう投稿やめたるわ！」と叫ぶまでが、テンプレートなんですけどね。

それはそれとして、本気でやめようと思った経験も、一度だけあります。

その時は本当に手を引くつもりで、「色々あって投稿をやめようと思います。今までありがとうございました」という告知を書こうとしたんですが、つらすぎて涙が出てきました。

でもそれで、逆に気付いたんですよ。

「やめる」と口にした時に心が痛むのは、未練がある証拠であって、本当は投稿をやめたくないんだと。

自分はやめた人もたくさん見てきましたが、そういう方々はほぼ例外なく、無関心になって去っていきま  
すからね。

つまり「やめたい」「もうイヤだ」と悩んでいる人は、続けたい気持ちがある人であって、本当にイヤになっ  
た人は悩む前にやめると思うわけです。

それに気付いてからは、つい発生してしまうネガティブな思考も、自分の感情として受け入れられるよう  
になりました。

だから何ってわけでもないんですが、やめたい気持ちはある意味やる気の裏返しだと思うので、安心して  
しっかり向き合ったらいいんじゃないかなと思います。



ゲットしました、ジャジャーン！

本日メディアワークス文庫様より発売されました、つるみ犬丸様著作、『ハイカラ工房来客簿神崎時宗の魔法の仕事』です。



MW公式サイトにて、作品紹介はもちろん、試し読みも可能です。  
そして太っ腹なことに、ウェブ限定の短編小説も、UPされているようです。

【作品紹介】

[http://mwbunko.com/product/2015/05\\_02\\_isbn.html](http://mwbunko.com/product/2015/05_02_isbn.html)

【試し読み】

<http://mwbunko.com/books/978-4-04-865194-3/>

【ウェブ短編】

<http://mwbunko.com/books/1505haikara-s/>

内容は腕利き革職人の時宗が、職人の仕事を通して、悩んでいる人々を助ける物語。

基本的に短編連作の形式なので読みやすく、「次はどんな問題を解決するんだろう？」と、ワクワクしながら読んでいけました。

キャラクターについては、たくさん登場人物がいますが、自分は主人公が好きですね。  
一見すると口が悪くて不器用だけど、なんだかんだで優しい好青年です。

あと個人的な感想を言うと、大正時代の空気感が、とても魅力的だと思います。

『はいからさん』の影響か、自分はその時代のレトロな感じに、今も憧れてしまいます。

巻末には残念ながら(?)了の文字がありましたが、これはシリーズ化されて欲しいなあって期待しつつ、公式サイト情報を待ちたいと思います。

こんにちは、らくだです。

最近のブログはもっぱら作品の紹介記事で、肝心のワタクシ自身の創作の話が、あまりないにご指摘いただきました。

そりゃそうよ！

皆様が素敵な作品を出版されている中、自分の小説は落選ばかりなんだから！

という書き方をすると、「卑屈すぎる」「自信を持って」というコメントが届くんですが、自分は自虐が趣味で楽しくこのノリをやっているのご安心くださいませ。

さてさて。

今日はAFPの試験を受けてきました。

冬頃は教科書をすべて覚える勢いで猛勉強していたんですが、途中で力尽きてしまい、受験票が届く頃には完全に興味を失っていたという……。

早い話、ペース配分を間違えました（汗）

小説投稿には本番がないですが、試験は本番ありきですからね。

で、そのテンションで受けた結果、自己採点は合格のボーダーライン。

合格したのか落ちたのか、結果が届くまで不明という、半殺しのような状態です。

しかもその発表が7月上旬で、電撃の1次発表とほぼ同時期！

両方落ちてしまった場合、徹夜でヤケ酒待ったなし！

まあでも今は結果を待つしかないなので、受かって&通っていることを願いつつ、次の道へ進んで行こうと思います。

「落選数ナンバー1ワナビ」という検索でこのブログを訪問するのは真面目に心が折れるからやめてください  
いよろしくをお願いします。

さてさて。

すでに何回も話題にしていますが、今回も、なろうコンの講評についてです。

個別講評を詳しく見ていたら、こんなコメントがあって、気になってしまいました。

『本作品は携帯から投稿された作品ですが、更新頻度が高く総文字量が多かったことも、著者の力量を図る  
上で注目させていただきました。』

えっ？

携帯から投稿したら有利なの？

うっしゃ、そんならテキストデータを携帯に転送してアップだな！

まあ実際、自分はなろう勢ではないので実行しませんが、こういうコメントが正式に掲載されていると、そ  
んな作者が出てきそうだなーと試してみたり。

これって実際のところ、どうなのでしょうね？

- ・携帯で小説を書くのは大変なはず
- ・にも関わらず文字量が多く更新頻度も高い
- ・作者の熱意や意気込みが感じられて評価できる

っていう意味でしょうか？

これは郵送応募の公募にはない評価視点で、まさしくネット小説ならではの、両者の違いとして面白  
いなあーと感じました。

公衆トイレのフック（古くてガタガタ）に荷物を掛けたら、途中でカバンが落ちてきて、用を足している最中に頭上に直撃した常木らくだです。

寂しすぎるわ……。

ドリフのコントかよ……。

まあ真面目な話をすると、痛いだけで水没はしなかったもので、その点はよかったです。

水没といえば、携帯をトイレに落としたというのは、よく聞く話です。

ズボンの尻ポケットにしまって、それを忘れてポチャン、というケースが多いようです。

自分は前に電気屋で働いていたのですが、たいていの携帯電話には、水没センサーがあるってご存知でしたか？

電気製品には1年間のメーカー保証がありますが、水没させたのに「自然に故障した」と主張する方がいらっしゃるの、濡れると色に変化する目印を装着させています。

iPhoneなどは場所を公表しているので、検索すれば誰でも情報を入手可能。

その名も「液体浸入インジケータ（LCI）」という、やけに厨二っぽい名称で、公式サイトサポートページにも載っています。

ただし湿気で反応する場合もあったりするので、修理の受付中に、トラブルになることもありましたが……（トラウマ）

とにかくそんなわけで、水没させたらメーカー側はわかるので、正直に申告して素直に自費で修理しましょう！

以上、小説投稿と特に関係ありませんが、電気製品の水没に関する豆知識でした。



たぶん一昨日の記事への励ましか、「落選も勲章だ」というコメントが来て、そのセンスに惚れそうです。

そうだ！

落選の数はすなわち勲章の数なんだ！

なんて叫ぶと弁解っぽいですが、言葉自体は名言だし、本当にその通りだと思います。

落選ってつらいですね。

自分が全力で書いた小説が、出版の価値ナシとして、否定されるわけですから。

でも我々投稿者という存在は、そこで諦めることなく、今日も投稿を続けています。

つまり落選してしまった回数というのは、落選から立ち直った回数でもあります。

この理屈って間違っていないですよね？

仮に立ち直れていなかったら、その時点で、投稿はやめているわけですし。

そう考えると、落選回数が多い自分の経歴を、ちょっとだけ好きになれる気がします。

「落選〇〇回だ……」と思うと心が折れそうですが、「落選から立ち直った回数〇〇回だ！」と思うと、もうちょっと頑張れそうな気がしますからね。

まあ正直な話、落選しないままデビューできたら一番なんですが、すでにそういうチャンスを逃している以上、自分の経歴を前向きに捉えるのは重要なことだと思います。

戦士の傷は勲章。

投稿者の落選も勲章。

というわけで、今の苦労をいつか笑い話として語れるよう、必ず本を出すんだという決意を改めて固めました。

8月27日発売の『3DS版・ドラゴンクエスト8』の公式サイトがオープンしました！

投稿ブログに長々と書くのも心苦しいですが、それを差し引いてもドラクエ8は神ゲームなので、見て思ったことを詳しく語りたいと思います。

【本日公開された公式サイト】

<http://www.dragonquest.jp/dq8/>

ティザーサイトにある程度の情報は出ていましたが、パッと確認したところ、このたび明らかになったのは下記の部分です。

- ・新たなシナリオを多数追加 ⇒ PS2版コンプ勢には嬉しい
- ・販売店別特典のイラスト公開 ⇒ ホイミンTシャツが可愛すぎる
- ・主要キャラクターの声優さん発表 ⇒ ドラクエ初のイベントボイスに期待
- ・3DSのすれちがい通信にも対応 ⇒ 詳細不明だけどユニークな内容らしい

一番テンションが上がったのは、やはり声優さんの情報ですね。

生天目さんのゲルダとか、子安さんのドルマゲスとか、今から楽しみすぎます。

そしてドルマゲスといえば、新シナリオのところに、闇落ち前の姿が載っています。

その部分の具体的な描写は、PS2版にはなかったもので、これも期待が高まります。

まあここで具体的に語っても、ゲームをされない方には「何が何やら」だと思いますが、ドラクエ8は全PS2ソフトの中で一番売れた記録を持つ偉大なゲームなのです。

というわけで、投稿記事の邪魔にならない程度に、今後も新情報が出たら紹介していきたいと思います。

今から発売日が楽しみだー！

こんにちは、らくだです。

今回はツイッターに関する話題です。

「最近〇〇さんの呟き見ないなあ」と思っていたら、相互フォローだった投稿者さん（しかも複数の方々）が、ツイッターの利用をやめてしまわれたようです。

なんだよ！

何の知らせもなく、寂しいじゃねーか！

でも寂しいと感じる反面、そのうち再会できるだろうという、楽観的な思考もあります。特に根拠はないですし、再会しても気付かないかもしれませんが、でもそう思うんです。

だって私たち投稿者には同じ夢がありますからね。

それぞれの軌道は違っても、辿り着くべき場所が一緒なら、いずれは会えるかなーと。

梅田から神戸へ出掛ける場合だって、JRと阪急と阪神の路線は違いますが、三宮に着いたらほぼ同じ場所ですし、投稿もそれと似たようなものでしょう。

まあその考え方は、お互いに最終目的地まで辿り着くという、かなり高いハードルを前提とした発想ではありますが……（汗）

とにかくそんなわけで、「一時的に離脱するという選択は理解した、しかし約束の地で必ず再会しようじゃないか、ふはははは待っているぞ友よ！」みたいな気分になりました。

はい。

無駄に一方的で暑苦しいです。

まあ上のセリフは誇張としても、ツイッターをやめただけで投稿をやめてないなら、今もこのブログを見てくれていたらいいなあーなんて思っています。

こんにちは、らくだです。

最近インプットに専念しており、たくさん小説を読んでいます。

今回紹介するのはMW文庫の最新刊で、渡来ななみ様著作、『思い出の色、あなたに残します』です。



#### 【作品介绍】

[http://mwbunko.com/product/2015/05\\_05\\_isbn.html](http://mwbunko.com/product/2015/05_05_isbn.html)

『とある山奥に「たましい」をガラス瓶に保存してくれる研究所がある。抽出されたそれぞれの「たましい」は、人生で一番印象に残った、鮮烈な思い出の色に染まっていて……』

読み終わった感想としては、非常に綺麗な作品でした。

しかし綺麗といっても、「きれいごと」ではなく、むしろその正反対です。

登場人物が直面する感情は、別れや不安や悲しみや、かなり重い種類のものです。

果たして命の扱いに正解はあるのか。

たましいを残した人間にとって、残された人間にとって、何が幸せで何が優しさなのか。

似たような境遇の人々と出会っていく中で、その問題に真っ正面から向き合い、少しずつ成長する主人公のみさきが好印象です。

だからこそ、すべて読み終わった後は、自分の心まで浄化された気分になりました。

「重いけど美しい作品」という印象は、もしかすると、そのあたりが理由かもしれません。

やけに抽象的な感想になってしまいましたが、実際に読めば「なるほど、そういう意味か」と納得できると

思うので、是非みなさまもチェックしてみてください！

こんにちは、らくだです。

今週末はオクトーバーフェストでビールを飲む！

……つもりだったんですが、あまりにも暑すぎて、会場の前で断念しました。

なんかもうね……。

カレンダー2枚めくって、今日が7月末でよくないかっていう、それくらいの暑さ……。

というわけで。

自宅でたこ焼きを焼きながら、ビールを飲む計画に変更です。



調理風景。

全部使うと焼き切れないので、わざと2列残しての作業です。

そして、ビール。

邪道と言われそうですが、自分のオススメは、ビールのカクテルです。

マズイだろうと思われそうですが、これが意外と食事に合うんですよ～。





わざわざ缶チューハイを購入するくらいなら、缶ビール+ジュースの方が、コストパフォーマンスが高いんですよね。

組み合わせにもよりますが、上の材料だったら、5杯くらいは楽しめます。  
配分でアルコールの濃度も調節できて、自分で作るのはいいこと尽くめです。

もちろん「成人&適量を守って」という前提ですが、軽い飲酒は暑気払いにもなるので、食事のお供にビアカクテルはいかがでしょう？